



岐阜大学機関リポジトリ

Gifu University Institutional Repository

イソフラボンその他の栄養摂取が癌・心血管障害死亡および女性の閉経に及ぼす影響

| | |
|-------|---------------------------------------------------------------------------------------------|
| メタデータ | 言語: Japanese 出版者: 公開日: 2008-03-12 キーワード: 作成者: 永田, 知里 メールアドレス: 所属: |
| URL | http://hdl.handle.net/20.500.12099/555 |

I. はしがき

大豆製品に多く含まれる植物エストロゲン的一种、イソフラボンや大豆蛋白には、実験研究により、癌抑制作用、コレステロール低下作用、女性ホルモン様作用が示されている。このため人において全癌死亡率や心血管障害死亡率を下げる効果があると期待できる。また、イソフラボンの女性ホルモン様作用は閉経年齢に影響を与える可能性もある。

本研究では、1)既に確立された一般住民約3万人のコホートを基に、前向き研究の方法を用い、大豆蛋白・イソフラボン摂取量と全癌死亡率および心血管障害死亡率との関連を評価する。2)同集団のコホート研究開始時における閉経前女性からのランダムサンプルを対象に、前向き研究の方法で、大豆製品、イソフラボン摂取量とその後の閉経年齢との関連を調べる。3)大豆蛋白・イソフラボン摂取の推定にあたり、尿中・血清中のイソフラボン代謝物との関連を基に、既に申請者が開発した食物摂取頻度調査票の妥当性を確かめる。同様に各種脂肪酸摂取の妥当性も血中測定値を基に評価する。4)大豆製品摂取以外に脂質、蛋白等の主要栄養素やアルコール摂取、緑茶、カロテン、魚油に含まれるエイコサペンタエン酸・ドコサヘキサエン酸の摂取量と癌死亡、心疾患死亡、閉経年齢、閉経の種類、閉経時の更年期症状、体重変化、との関連もこのコホート研究において評価する。

大豆製品を多く摂る者に癌死亡、心血管障害疾患死亡が低いという結果が得られれば、大豆製品の癌および心血管障害予防食品としての可能性が示される。他の栄養素、食品もこれらの疾患死亡との関連が評価されるので、望ましい食生活のあり方を求める上で貴重なデータとなる。また、閉経年齢はその後の心疾患、癌、骨粗鬆症など多くの疾患のリスクと関連があるため、閉経時期を早めたり、あるいは遅らせる食品摂取を知ることは重要であり、有益な情報となる。